

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	平成31年2月1日(金) 14時00分から15時30分
会 場	野方区民活動センター ギャラリーA・B
テ ー マ	障害者差別解消
出席者 区 民	計 15人
区 側	区長 北部すこやか福祉センター副参事(地域支援担当) 健康福祉部副参事(障害福祉担当)
事務局	企画分野職員2人、業務マネジメント改革分野職員1人 障害福祉分野職員3人、野方区民活動センター職員1人
一 時 保 育	無
手 話 通 訳	無

テーマ「障害者差別解消」

関係部署 障害福祉分野

区長あいさつ

タウンミーティングは、各地でテーマを決めてグループディスカッション形式で実施している。テーマについてグループごとに話していただき、ご意見を万遍なくお伺いする。
各グループの議論に参加し、より多くの意見をいただきたいと思っている。
皆さんの意見を区政に活かしていくためのタウンミーティングである。日頃から感じていることを何でも話してほしい。

各グループの発表概要

■差別意識について

- ・障害者に対する差別意識がある。あたたかい眼差しを増やしてほしい。
- ・障害者差別に関するリーフレット等には身体障害者の記載がほとんどであり、知的障害者や精神障害者に対する記載がないので、記載してほしい。
- ・図書館の無料宅配サービスが下肢不自由の身体障害者のみを対象としている。他の身体障害者・知的障害者・精神障害者にもニーズがあるので対象を拡大してほしい。
- ・協力したくて自分なりにできることを探し、教育などに携わってきた。区内には私立幼稚園が多く、区立は2園しかない。区立幼稚園では、障害児も一緒に過ごすのが、私立幼稚園では預かりが拒否される場合がある。障害のある・なしに関係なく、生活し、お互い学び合うことが重要で、障害の有無に関わらず、保育園や幼稚園にみんな入れるべきである。
- ・認可された以上は、準じた運営を行うために、先生に対する研修の機会を設けるなど行政が補助してほしい。

■障害について

- ・中野区のHPを調べたが、『子どもの発達障害』については記載があるものの『大人の発達障害』について記載しているページは見つからなかった。大人の発達障害についても普及・啓発してほしい。
- ・聴覚障害については知られていないことが多い。補聴器はまんべんなく音を拾うため、低い声でゆっくり、かつ複数人ではなく1対1で話してほしい。硬い床だと音が反響して聞こえづらいため、新区役所の会議室は絨毯を敷く等の配慮してほしい
- ・障害にも様々な種類がある。理解しようとするのが大切であると思う。障害を持った方が学校等で講演をする機会を設けたりと行政には普及・啓発のバックアップをしてほしい。

■ヘルプカード等について

- ・ヘルプカードの存在を知らなかったが、このようなものがあるといいなと思っていた。
- ・ヘルプマークや耳マーク等障害を知らせることのできるマークが多数存在している。このようなマークの周知活動に努めてほしい。

■その他

- ・車道と歩道の段差が危険。障害のある人やお年寄りには小さな段差でも思わぬ怪我をしてしまう。
- ・東山高齢者会館を利用しているが、近隣の杉の子弥生事業所の方が来て枝刈りをしてきている。非常にありがたいし、交流ができて良い。世田谷区のように、休日でも楽しめる喫茶のような施設があるとよりいいと思う。
- ・障害者差別の解消について、精神障害を持つ友人がグループホームで財産を取り上げられたり罵声を浴び症状が悪化したという事例が依然としてある。
- ・日本人は物事を型にはめて考えがちだが、自由な発想を持ち、障害のある・なし関わらず一緒に生活し教師も含めて互いに育ち、初めて平等に暮らせるのではないかと思った。区が区民を支えてくれるよう期待している。

発表に対する区長のコメント

■差別意識について

- ・社会の眼差しをどう変えていくかは重要で、法律ではハード整備を中心としているが人の意識を変えていくことも大切だと思う。障害者団体と交流したが、困ったことを捉えるためには、困っている障害者の人と、関わる機会をつくっていく必要がある。
- ・図書館について、下肢の障害のある方だけでなく精神障害や知的障害のある方にとっても宅配サービスは需要があると思う。需要については、言われないと気づけない部分もあるので、今後ご意見をお伺いしたい。
- ・現在2つの区立幼稚園ではそれぞれ障害のある子どもが3割、4割通っている。1つの園における障害のある子どもの割合としては高い。これは区内全体で障害のある子どもの受け入れが十分にできていない結果である。今後私立への働きかけをしていかなければならない。

■障害について

- ・聴覚障害について、床の反響についてはこのように言ってもらうまで知らなかった。新区役所整備のワークショップも現在行っているので、この問題は解決していく。
- ・発達障害については、子どもの発達障害について区報で初めて取り上げた。反響がかなり大きかった。大人の発達障害は、自治体では施策がほぼなく、区でも実施していないのでホームページ等もない。ご意見を受け止めさせていただく。

■ヘルプカード等について

- ・ヘルプカード、耳マークなどのマークについて、知ってもらうことは重要。障害対して求めている支援を決めてしまいがちだが、一人ひとり異なったニーズがあるので、ニーズにあった支援を行うことが大切だと思う。

■その他

- ・段差は障害者、高齢者に関わらず誰でも躓いてしまう。先日台湾に行ってきたが、台北は、段差が多く躓きやすいが、道幅が広く自転車と歩行者と車が植木などできちんと分離されていた。日本も整備を進めていかなければならない。
- ・現状、障害を持っている人はあまり外に出られず、それによって日常生活の中で私たちが障害を持った人に関わるという機会が少ない。このような現状は外国ではないため、日本においても障害者が外に出て、活動できる環境を作っていくことが大切である。日本では国としての施策が遅れているが、実際に困っている人をどう助けるかという視点が重要だと思っている。都・国任せではなくできることをやっていきたいので、今後ご指導をお願いしたい。